

箱の処分、犬の然同「ゴミ」

20年間、市内28カ所に

愛護団体反発で廃止へ

豊橋

愛知県豊橋市は二十年前から市内の二十八カ所に鉄のオリ箱を置き、飼えなくなった愛犬や野犬を市民に自由に入れさせ、保健所に処分してもらっていたが、

四日までにこの処分方法を廃止する方針を固めた。ゴミと同じような扱いに「動物の虐待につながる」という動物愛護団体の廃止要望に応じたもので、早ければ

来月から取りやめる考え。市の説明によると、この箱が設置されたのは一九七二年の夏ごろ。

市が鉄のオリ箱（横一〇五センチ、高さ六五センチ、奥行き五五センチ）を作り、市内の各農協の本所や支所の屋外計二十八カ所に一個ずつ設置。犬の回収日を一週おきに定め、それぞれ住民が自由にオリを開けて犬を入れられるようにした。入れられた犬は、その日のうちに保健所に引き取ってもらっている。これまでに多い年で約千三百匹、少ない年でも八百匹ぐらいが入れられたという。

このような実情を知った全国組織の民間動物愛護団体「動物たちの会」（本部・東京、R・ヘロルド代表）が先月中旬同市に「動物の虐ゴミ箱みたいで、動物の虐待につながる、好ましくないと廃止を求めた。

大塚浩蔵・市衛生課長は「住民の要望にこたえるため、これまで続けてきた」と話している。これに対し、同会事務局の杉本等さんは「犬の管理は飼い主などがきちんと管理すればできること」と歓迎している。

「全国新聞社広告責任者会議」が始まる

大阪

新聞各社の広告担当者が一堂に会する第三十一回「全国新聞社広告責任者会議」（日本新聞協会主催）が五日、大阪市内のホテルで始まった。現在の広告不況打開策について討議する。全国、ブロック、地方紙六十五社から広告担当者約二百五人が参加。



不用犬や野犬の回収のために豊橋市が市内に設置していたオリ